



平成18年3月期 第1四半期財務・業績の概況（連結）

平成17年7月28日

上場会社名 杏林製薬株式会社

(コード番号：4560 東証第一部)

(URL <http://www.kyorin-pharm.co.jp/>)

問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長執行役員 荻原 郁夫

責任者役職・氏名 執行役員経理部長 伊藤 洋 TEL：(03) 3293-3420

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

- ① 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
(内容)
1. 棚卸資産の实地棚卸の省略 : 帳簿棚卸によって算定しています。
2. 法人税等の計上基準 : 一部簡便的な方法を採用しています。
- ② 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無
- ③ 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有
連結(新規) 1社 (除外) 0社 持分法(新規) 0社 (除外) 0社

2. 平成18年3月期第1四半期財務・業績の概況（平成17年4月1日～平成17年6月30日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況 (注) 金額は百万円未満を切り捨て

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18年3月期第1四半期	17,312	7.0	2,929	117.1	3,052	92.3	1,942	74.6
17年3月期第1四半期	16,184	8.8	1,349	—	1,587	—	1,112	—
(参考)17年3月期	66,296		5,866		6,430		2,013	

	1株当たり四半期(当期)純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益
	円 銭	円 銭
18年3月期第1四半期	26 16	—
17年3月期第1四半期	14 97	—
(参考)17年3月期	26 48	—

- (注) 1. 売上高、営業利益率等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。ただし、営業利益、経常利益、四半期(当期)純利益は平成17年3月期第1四半期から開示を始めたため、平成17年3月期第1四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

国内医薬品業界においては、相次いで実施される薬剤費抑制策の進展により市場の拡大が望めない状況にあります。その一方で、世界的なレベルでの新薬開発競争によって研究開発費は高騰の一途をたどっており、市場環境は日に日に厳しさを増し、国内製薬企業同士のM&Aをはじめ業界の再編も進むなど、各企業とも新たな生き残り策を模索している状況です。

このような中、当社は平成17年度の経営方針として「新たな成長基盤の創出；目指す企業像への

転換と結集」を掲げ、重点項目である①グローバル創薬システムの確立、②医薬事業においてゆるぎない競争力育成、③新事業領域への参入とその基盤となる事業の獲得、④ブランド・人事制度改革の遂行に取り組んでおります。

この結果、当第1四半期の業績（連結ベース）は

売上高 173億12百万円（前年同期比 7.0%増）

経常利益 30億52百万円（前年同期比92.3%増）

四半期純利益 19億42百万円（前年同期比74.6%増）

と順調に推移いたしました。

販売の状況につきましては、国内における医療用医薬品では呼吸器内科・耳鼻科・泌尿器科に重点化するフランチャイズカスタマー（FC）戦略を重点的に推進し、最大限の販売力発揮に努めました結果、139億90百万円（前年同期比13.7%増）の売上を計上いたしました。主要製品では、呼吸器系薬剤であるロイコトリエン受容体拮抗剤・気管支喘息治療剤「キプレス」、気道粘液調整・粘膜正常化剤「ムコダイン」が堅調に推移すると共に、広範囲経口抗菌薬「ガチフロ」、潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「ペンタサ」は前年を上回る実績で推移いたしました。一方、広範囲経口抗菌剤「バクシダール」、活性型ビタミンD3 製剤「ロカルトロール」、胃炎・胃潰瘍治療剤「アプレース」は前年比マイナスの実績となりました。

海外では、合成抗菌剤「テクイン（導出先；米国ブリストル・マイヤーズ スクイブ社）」及び広範囲抗菌点眼剤「ザイマー（導出先；米国アラガン社）」につきましては、両剤ともに現地売上は平成16年を上回る実績で推移いたしました。テクインの原末輸出が前年を下回った結果、売上は22億31百万円（前年同期比21.1%減）となりました。

一般用医薬品等では、主用品である哺乳ビン・乳首消毒剤「ミルトン」が前年比マイナスとなり、7億33百万円（前年同期比1.5%減）の売上となりました。

販売促進・広告の企画制作関連事業につきましては、売上高2億99百万円（前年同期比3.0%減）の実績となりました。

研究開発の状況につきましては、感染症、免疫・アレルギー、代謝性疾患に研究領域を重点化し、資源を集中的に投入いたしております。平成12年より共同研究を実施している杏林スコットランド研究所、平成16年12月に子会社化した米国A c t i v X社により日・米・欧3極での世界的な創薬ネットワークの構築に至り、本年度はグローバル創薬システムの確立を目指しております。今後、早期に有用な薬剤の創製に結び付けていく所存です。

新規事業領域への参入とその基盤となる事業の獲得としまして、本年5月にジェネリック医薬品（後発医薬品）の製造販売を主な事業とする東洋ファルマー株式会社の株式を71.7%取得し、子会社化いたしました。また、本年6月には製薬技術を応用した化粧品を開発及び販売するドクタープログラム株式会社を100%子会社化いたしました。今後は、ハイリスク・ハイリターンである創薬事業を支える医薬事業に次ぐ事業として、早期に収益の拡大に努めてまいります。

なお、東洋ファルマー株式会社及びドクタープログラム株式会社は、今年度より当社の連結子会社となりますが、業績への影響は第2四半期以降となります。

利益面では、国内医療用医薬品の売上が前年を大幅に上回り、また販売費及び一般管理費におきまして研究開発費が前年を下回ったことから経常利益として30億52百万円（前年同期比92.3%増）を計上いたしました。また、当第1四半期純利益は19億42百万円（前年同期比74.6%増）となりました。

(2) 財政状態（連結）の変動状況

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
18年3月期第1四半期	120,501	91,839	76.2	1,236.38
17年3月期第1四半期	121,664	92,160	75.8	1,239.62
(参考)17年3月期	109,234	90,544	82.9	1,218.22

【連結キャッシュ・フローの状況】

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
18年3月期第1四半期	6,057	△4,586	△679	12,173
17年3月期第1四半期	3,137	703	△758	44,831
(参考)17年3月期	△7,346	△21,521	△1,516	11,361

[財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等]

(財政状態)

株主資本は前連結会計年度末と比較して12億94百万円増加しましたが、総資産はそれを大きく上回り112億66百万円増加したため、株主資本比率は76.2%となり前連結会計年度末に比べ6.7%減少いたしました。

総資産の増加の主な理由は、東洋ファルマー株式会社を新たに連結子会社化したこと及び棚卸資産の増加によるものであります。

(キャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、60億57百万円のプラスであり、この主な内訳は、税金等調整前四半期純利益30億20百万円、売上債権の減少10億80百万円です。

投資活動によるキャッシュ・フローは、45億86百万円のマイナスで、これは主に子会社株式の取得による支出29億13百万円によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、6億79百万円のマイナスで、これは主に配当金の支払6億68百万円によるものです。

この結果、当第1四半期の現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度末と比較して8億11百万円増加し、121億73百万円となりました。

(参考1) 四半期個別経営成績等の概況(平成17年4月1日～平成17年6月30日)

(注)金額は百万円未満を切り捨て

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
18年3月期第1四半期	16,956	2,912	2,983	1,869

	総資産	株主資本
18年3月期第1四半期	111,477	90,046

3. 平成18年3月期の連結業績予想(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

(注)金額は百万円未満を切り捨て

	予想売上高	予想経常利益	予想当期 (中間)純利益
中間期	32,100	2,400	1,100
通期	71,000	6,200	3,300

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 44円43銭

[業績予想に関する定性的情報等]

当第1四半期は、売上面では国内呼吸器系疾患の需要拡大に伴い国内医療用新薬が堅調に推移し、利益面では売上面での増収に加え販売費及び一般管理費における研究開発費等の経費化に期ズレが生じたことから中間期予想を上回る進捗で進捗しました。しかしながら、第2四半期以降売上面に影響を及ぼす市場の変化など上ブレ要因が想定されないこと、研究開発費におきましても未消化分の経費計上が予定されることから平成17年3月期決算時に発表しました中間期および通期の業績予想につきましては現段階で変更はございません。

なお、今後の業績推移の状況により業績予想の修正が必要になった際には速やかに情報開示いたします。

(参考2) 平成18年3月期の個別業績予想(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

(注)金額は百万円未満を切り捨て

	予想売上高	予想経常利益	予想当期 (中間)純利益	1株当たり年間予想配当金	
				中間	期末
中間期	30,200	2,200	1,000	10 00	—
通期	64,800	5,600	3,000	—	10 00

1. (要約)四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当四半期末 (平成17年6月30日現在)		平成17年3月期 (平成17年3月31日現在)		増 減 金額	前年同四半期末 (平成16年6月30日現在)	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
(資産の部)		%		%			%
I 流動資産							
現金及び預金	12,064		8,760		3,304	41,323	
受取手形及び売掛金	26,254		24,655		1,598	21,252	
有価証券	1,311		3,010		△ 1,699	4,423	
棚卸資産	13,990		10,152		3,838	9,188	
繰延税金資産	1,940		2,171		△ 230	1,827	
その他	3,059		3,079		△ 20	4,121	
貸倒引当金	△ 70		△ 48		△ 22	△ 41	
流動資産合計	58,550	48.6	51,782	47.4	6,767	82,095	67.5
II 固定資産							
有形固定資産							
建物及び構築物	8,771		7,200		1,571	8,715	
その他	10,695		9,796		898	5,627	
有形固定資産合計	19,466	16.1	16,997	15.6	2,469	14,342	11.8
無形固定資産							
商標権	2,632		2,839		△ 207	3,460	
その他	3,488		2,732		756	1,288	
無形固定資産合計	6,121	5.1	5,571	5.1	549	4,749	3.9
投資その他の資産							
投資有価証券	29,329		28,621		707	12,028	
繰延税金資産	4,561		4,469		91	5,942	
その他	2,947		1,810		1,136	2,526	
貸倒引当金	△ 474		△ 18		△ 455	△ 21	
投資その他の資産合計	36,362	30.2	34,883	31.9	1,479	20,476	16.8
固定資産合計	61,950	51.4	57,452	52.6	4,498	39,568	32.5
資産合計	120,501	100.0	109,234	100.0	11,266	121,664	100.0
(負債の部)							
I 流動負債							
支払手形及び買掛金	9,957		5,827		4,130	5,814	
短期借入金	661		—		661	—	
未払法人税等	585		48		537	1,053	
賞与引当金	1,143		2,036		△ 892	1,085	
返品調整引当金	96		41		55	32	
その他	5,913		3,267		2,646	6,174	
流動負債合計	18,358	15.2	11,220	10.3	7,138	14,160	11.6
II 固定負債							
社債	270		—		270	—	
長期借入金	962		—		962	—	
退職給付引当金	4,769		4,389		379	14,927	
役員退職慰労引当金	466		374		91	352	
その他	2,766		2,706		60	63	
固定負債合計	9,233	7.7	7,470	6.8	1,763	15,342	12.6
負債合計	27,592	22.9	18,690	17.1	8,901	29,503	24.2
(少数株主持分)							
少数株主持分	1,069	0.9	—	—	1,069	—	—
(資本の部)							
I 資本金	4,317	3.6	4,317	3.9	—	4,317	3.5
II 資本剰余金	949	0.8	949	0.9	—	949	0.8
III 利益剰余金	106,526	88.4	105,294	96.4	1,232	105,063	86.4
IV その他有価証券評価差額金	772	0.6	713	0.7	59	2,472	2.1
V 為替換算調整勘定	8	0.0	△ 6	△ 0.0	14	△ 7	△ 0.0
VI 自己株式	△ 20,735	△ 17.2	△ 20,724	△ 19.0	△ 11	△ 20,634	△ 17.0
資本合計	91,839	76.2	90,544	82.9	1,294	92,160	75.8
負債、少数株主持分及び資本合計	120,501	100.0	109,234	100.0	11,266	121,664	100.0

2. (要約)四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当四半期 自 平成17年4月 1日 至 平成17年6月30日		前年同四半期 自 平成16年4月 1日 至 平成16年6月30日		増 減	平成17年3月期 自 平成16年4月 1日 至 平成17年3月31日	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	金額
I 売上高	17,312	100.0	16,184	100.0	1,127	66,296	100.0
II 売上原価	5,793	33.5	5,813	35.9	△ 20	22,682	34.2
売上総利益	11,519	66.5	10,370	64.1	1,148	43,614	65.8
III 販売費及び一般管理費	8,589	49.6	9,021	55.8	△ 431	37,747	57.0
営業利益	2,929	16.9	1,349	8.3	1,580	5,866	8.8
IV 営業外収益	158	0.9	269	1.7	△ 111	818	1.3
V 営業外費用	35	0.2	31	0.2	3	254	0.4
経常利益	3,052	17.6	1,587	9.8	1,464	6,430	9.7
VI 特別利益	0	0.0	56	0.3	△ 55	1,847	2.8
VII 特別損失	32	0.2	11	0.0	21	4,266	6.4
税金等調整前四半期(当期)純利益	3,020	17.4	1,632	10.1	1,387	4,012	6.1
法人税等	1,077	6.2	519	3.2	557	1,998	3.0
四半期(当期)純利益	1,942	11.2	1,112	6.9	829	2,013	3.1

3. (要約)四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当四半期 (平成18年3月期 第1四半期)	前年同四半期 (平成17年3月期 第1四半期)	平成17年3月期
区 分	金 額	金 額	金 額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前四半期(当期)純利益	3,020	1,632	4,012
減価償却費	799	867	3,894
売上債権の増加額(△)・減少額	1,080	1,308	△ 1,980
棚卸資産の増加額(△)・減少額	△ 2,404	219	△ 744
仕入債務の増加額・減少額(△)	2,364	195	208
その他	1,396	1,285	△ 10,026
小 計	6,256	5,509	△ 4,637
法人税等の支払額	△ 67	△ 1,470	△ 1,590
その他	△ 131	△ 901	△ 1,119
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,057	3,137	△ 7,346
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有価証券の売却(償還)による収入	199	1,100	1,701
有形固定資産の取得による支出	△ 289	△ 166	△ 5,767
投資有価証券の取得による支出	△ 379	△ 30	△ 23,352
投資有価証券の売却(償還)による収入	—	15	5,754
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入・支出(△)	△ 2,913	—	134
その他	△ 1,204	△ 214	8
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,586	703	△ 21,521
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
自己株式の取得・売却による支出(収入)	△ 11	△ 14	△ 104
配当金の支払額	△ 668	△ 743	△ 1,412
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 679	△ 758	△ 1,516
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	20	5	4
V 現金及び現金同等物の増加額(又は減少額)	811	3,089	△ 30,380
VI 現金及び現金同等物の期首残高	11,361	41,741	41,741
VII 現金及び現金同等物の期末残高	12,173	44,831	11,361